

情報デザインを利用した PR 活動の研究

研究者：宮川

1 はじめに

ホームページなどで、どのようにデザインをすればPRすることができるか。どのようにデザインすれば注目してもらえるのか。グラフィックソフトを使用し、「人と人のあいだのコミュニケーションをデザインする」を目標に研究を行った。

2 使用機材

・ペンタブレット

マウスと同じ「ポインティングデバイス」の一つに分類される PC 周辺機器である。タッチペンとタッチパネルのペアになった機器でタッチペンとタッチパネルを使って PC のマウスマウスカーソルを操作することもできる。マウスと比べてとても細かな操作が可能で、PC 上で手書きの絵や字を書く際の操作が劇的に便利になるデバイスである。タブレットは PC の USB ポートに接続して使用するものが一般的である。ペンには電池を入れるものや磁誘導方式のものがある。



図1 ペンタブレット (Intuos Comic)

・FireAlpaca

今回の研究で使用した、高機能でシンプルなペイント系グラフィックソフトである。滑らかで狙ったところに線を引けるように、タブレットの筆圧感知機能に対応している。画像の保存形式はレイヤー情報を保存できる独自方式のほか、BMP/PNG/JPEG/PSD 形式にも対応している。

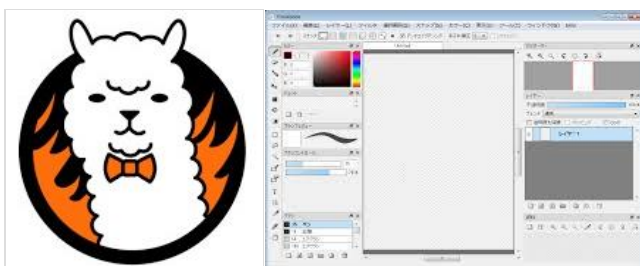


図2 FireAlpacaアイコン、画面図

・昇華プリント

昇華転写専用のインクをプリンタで転写紙にプリント後、高温の転写機に転写紙と生地を一緒に通すことにより、転写紙にプリントされたインクが液体から瞬時に気体(気化)となり繊維に染色される。インクジェットプリンターで印刷した写真や絵などをTシャツ、ポロシャツ、マグカップに転写することができる。



図3 昇華プリンタ

3 技法

・左右対称

FireAlpacaでは縦横方向だけでなく、斜めの平行線や消失点、集中線といったスナップ機能が利用できる。この機能により簡単に補助線を用いて対象なイラストを描くことができる。

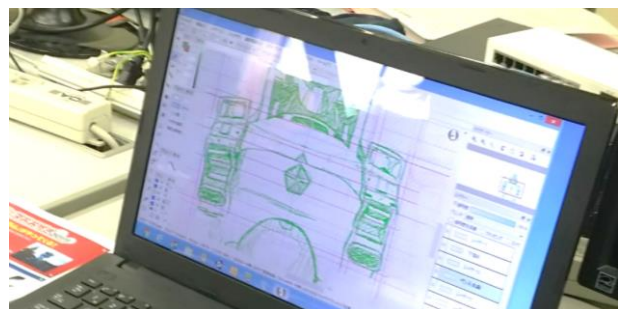


図4 補助線の例

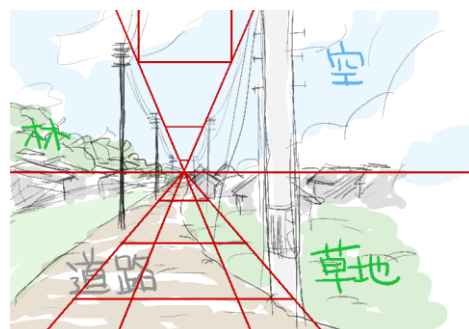


図5 消失点の例

4 PR活動

・ホワイトボードアート

夏休みに行われた高校見学会の際に、見学者の方をお迎えするためのホワイトボードアートを行った。実際に教室に置いてあったロボットを元にいくつかデザインした。



図6 展示をおこなったホワイトボード

・中学生高校見学会CDのデザイン

中学生の方々が制作したプログラムを書き込み、配布をした。パソコンの絵などの案もあったのだが、「シンプルなデザインで印象を残そう」をコンセプトにデザインを考えた。



図7 一日入学で配布したCDデザイン

・マグカップ制作1

ロボフェスおおがき2017というイベントで、情報技術部が配布するためのマグカップのデザインを行った。まず昇華プリンタでデザインした絵を印刷し、マグカップの大きさに合うように整える(図8)。そして熱でマグカップに昇華させる(図9)。



図8 マグカップ制作過程1



図9 マグカップ制作過程2

・マグカップ制作2

写真を元に似顔絵を描き、お祝い用のマグカップ制作を行った。黒く塗りつぶしているところが斑になる原因を検証する予定である。



図10 マグカップ完成品

・ロボット班の看板

ロボット班の看板を制作し、文化祭で展示した。ロボット班なので、ネジなどの部品をフォントにするというデザインとした。わずかな時間でデザインを行ったので、未完成な部分を完成できるようにしたい。



図11 ロボット班看板図

5 まとめ

当初考えていたよりいろいろな作品を制作することができました。自分の描いた絵が、他人の手に渡ったり、多くの人にみてもらったりする機会があり、その際、喜んでいただけたら褒めていただけたらと、嬉しくなることが多くありました。デザインを考え、形にすることは大変で時間もかかりますが、その苦勞をした分良いことがあるとわかりました。この課題研究で、デザインで人とコミュニケーションをとることができたと思います。